

執筆要綱

2004年1月12日制定
2005年12月3日改訂
2012年4月1日改訂

- 論文は和文または英文とします。英文の場合は、英語を母語とする外国人に校閲を受け、所定の校閲証明書を添付してください。
- 原稿はすべて横書きとし、ワードプロセッサを使用する場合はA4用紙を使用し、表紙に本文の文字数および図表の個数を明記してください(原則として1行40字、1頁30行)。
図、表、写真はそのまま掲載できるものを送ってください。図は、墨または黒インクで清書したものとします。当方でトレースをした場合は実費を徴収します。
図、表、写真の挿入箇所を、本文原稿用紙の欄外に、図○、表○、写真○と朱書き記載してください。また、図、表、写真の説明は別の原稿用紙に一括して記載してください。
- 原稿は以下の体裁で作成してください。
第1頁:「論文題名」「論文種別」「著者(共著者)の姓名」「所属(科名まで)とその所在地」「筆頭著者の連絡先(住所、電話、FAX、e-mail アドレス)」を明記する。著者(共著者)名には振り仮名をつける。
第2頁:「論文題名」と「論文種別」を明記する。
第3頁:論文の和文要旨を400字以内にまとめる。また要旨の次にキーワードを名詞形で5個以内記載する。
第4頁:「英文の題名」「著者(共著者)のフルネーム」「所属とその所在地」「200語程度の英文要旨」「5語以内の英語のキーワード」「筆頭著者の連絡先(住所、電話、FAX、e-mail アドレス)」を英語で記載する。
第5頁:「英文の題名」「200語程度の英文要旨」「5語以内の英語のキーワード」を記載する。
本文は原稿の第6頁目から書き始める。
原著や短報では原則として以下の構成で書く。
I. はじめに(研究の背景と目的も可)、II. 方法、III. 結果、IV. 考察、V. 結論
謝辞、文献、注がある場合は、結論の次にこの順序で記述する。
- 外国語名(人名、薬品名など)は原語のまま用い、ワープロを使用するか、活字体で明記してください。ただし、日本語化しているものはカタカナ書きしてください。学術語はできるだけ訳語を用い、必要に応じて()内に原語を入れてください。数字は算用数字を用い、度量衡単位は、m, cm, mm, cm², ml, l, dl, kg, g, mg, などを使用してください。
- 論文の文献は、本文に引用されたもののみとします。文献は、原著論文と症例報告については30個以内、短報については15個以内とします。
 - 本文中に文献を引用する場合は、その個所の右肩に¹⁾や^{1,2,5-7)}のように記す。
 - 引用した文献をまとめて文献一覧を作成し、本文文末に記載する。文献一覧は引用順に配列し、1), 2)…と通し番号を付す。
- 文献一覧の書き方は統一し、外国雑誌は原則としてIndex Medicusに従って略号で記載して下さい。
文献の著者が3名以内の場合は全員の名前を記載し、4名以上のときは最初の3名を記載し、残りは「…ら」、または「et al.」と記してください。著者間は英文の場合も&を入れずに、カンマで区切って下さい。
〔雑誌の場合〕
著者名:論文タイトル、雑誌名、巻数(号数);最初の頁-最後の頁、西暦発行年
例 1) 福岡達之, 川阪尚子, 野崎園子ら:嚥下障害患者に対する随意咳嗽の空気力学的測定と誤嚥の関連。言語聴覚研究, 8(3); 131-138, 2011
2) Naeser MA, Martin PI, Nicholas M, et al.: Improved picture naming in chronic aphasia after TMS to part of right Broca's area: An open-protocol study. Brain Lang, 93; 95-105, 2005
3) Max L, Yudman EM: Accuracy and variability of isochronous rhythmic timing across motor in stuttering versus nonstuttering individuals. J Speech Lang Hear Res, 46; 146-163, 2003
〔書籍の場合〕
〈和書〉
著者名(訳者名):論文タイトル、書籍名(編者名 編)、版数、出版社、出版地、引用頁、西暦発行年
訳本の場合は、著者名と訳者名の両方を記載する。訳者名は著者名の後ろに(○○訳)と書く。
例 1) 笹沼澄子, 綿森淑子, 福迫陽子ら:失語症の言語治療。医学書院, 東京, 52-75, 1993
2) 能登谷晶子:機能性聴覚障害。標準言語聴覚障害学—聴覚障害(中村公枝, 城間将江, 鈴木恵子編)。医学書院, 東京, 292-295, 2010
3) Basso A(武田克彦ら訳):失語症—治療へのアプローチ。中外医学社, 東京, 202-222, 2006
〈洋書〉
著者名:論文タイトル、In:書籍名(eds 編者名)、Xth Ed., 出版社、出版地、引用頁、西暦発行年
例 1) Goodglass H: Understanding aphasia. Academic Press, New York, 13-39, 1993
2) Heim S: The language production-comprehension network in functional imaging. In: Language-normal and pathological development (eds Riva D, Rapin I, Zardini G). John Libbey Eurotext, Montrouge, 51-60, 2006